

日本のシルクロード 横浜と信州の交易

横浜開港と生糸貿易

講師 シルク博物館 小泉 勝夫

1 はじめに

横浜・長崎・箱館開港

1859(安政6)年7月1日
(陰曆6月2日)

居留地

- * 外国人の**居住と商売場所**
- * 外国商人の**国内進出の防波堤**
- * 外国商人と**日本商人との**
経済戦争の場

(慶応2年：山手地区を居留地に編入)

(明治32年：居留地は領事裁判制度と共に廃止)

横浜に進出してきた 国内の商人たち

- 輸入商.....引取商
- 輸出商.....売込商

横浜に出てきた商人の特色

- 江戸特権商人

(幕府御用達の豪商 例:三井八郎右衛門)

- 冒険的投機商人

(地方出身者 例:中居屋重兵衛、
甲州屋忠右衛門など)

横浜・信州の交易の始まり

- 物
 - 信州から...生糸・蚕種など
 - 横浜から...輸入品の砂糖・綿など
- 文化 — 横浜から...西洋文化の伝播
(理髪、洋裁・パン・牛乳・牛肉・
新聞・キリスト教など)

2 開港による 政治・経済・ 庶民の生活

横浜開港による 政治・経済・庶民の生活の変貌

	開港前	開港後
政治	幕藩体制による 統治	国際政治
経済	幕府による 規制経済	自由経済
庶民生活	奢侈禁止 キリスト教禁止 弾圧	西洋文化の享受 衣食住の洋風化 キリスト教信仰

3 開港による 生糸貿易の はじまり

幸運だった生糸貿易の始まり

生糸生産と消費 のヨーロッパ	蚕の微粒子病万延 繭・生糸の大幅減産 高い生糸需給(生糸不足)
生糸生産供給国 清(中国)	第二次アヘン戦争 太平天国の乱
開港時の日本	かなり出来上っていた 養蚕基盤 良質な生糸生産

開港当初の生糸相場 (生糸1俵)

年次	横浜輸出相場	前橋地方相場
1859(安政6)	241 両	133 両
1860(万延元)	337	213
1861(文久元)	277	291
1862(文久2)	302	188
1863(文久3)	344	291
1864(元治元)	375	248
1865(慶応元)	463	376
1866(慶応2)	558	492
1867(慶応3)	567	582

出典:日本蚕糸業史第一巻「生糸貿易史」P74

外国生糸市場相場に対する 横浜生糸相場

年 度	リヨン相場 (前橋1番)	ロンドン相場 (前橋2番)
1861(文久元)	42.5%	46.9%
1863(文久 3)	52.8	57.8
1865(慶応元)	48.8	52.7
1867(慶応 3)	60.9	69.7

出典:横浜市史第2巻P380から抜粋

日本からの主要輸出品

1860 (万延元) 年

品目	価額 (千\$)	輸出比 率(%)	品目	価額 (千\$)	輸出比 率(%)
生糸	2,594	65.6	種子	117	3.0
茶	308	7.8	干魚	95	2.4
油	217	5.5	その他	413	10.4
銅	209	5.3	合計	3,954	100.0

出典: 横浜市史第二巻P370

横浜からの主要輸出品 (構成比%)

(単位:輸出額1,000ドル)

年次	輸出総額	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
1860	3,954	生糸	65.6	茶	7.8	油	5.5	銅	5.3	種子	3.0
1863	10,554	生糸	83.6	原綿	8.9	茶	5.1	干魚	0.6	布片	0.5
1865	17,468	生糸	83.7	茶	10.2	蚕種	3.8	繭	1.0	原綿	0.3
1867	9,709	生糸	53.7	蚕種	22.8	茶	16.7	漆器	1.3	玉糸	1.3
1870	11,331	生糸	40.0	蚕種	30.6	茶	23.8	繭	0.9	真綿	0.7
1873	15,095	生糸	46.7	茶	22.1	蚕種	20.1	繭	1.6	銅	1.4
1875	12,467	生糸	43.5	茶	39.1	蚕種	3.8	繭	2.0	銅	1.5

出典:神奈川県史通史編6近代・現代(3)産業・経済1P100

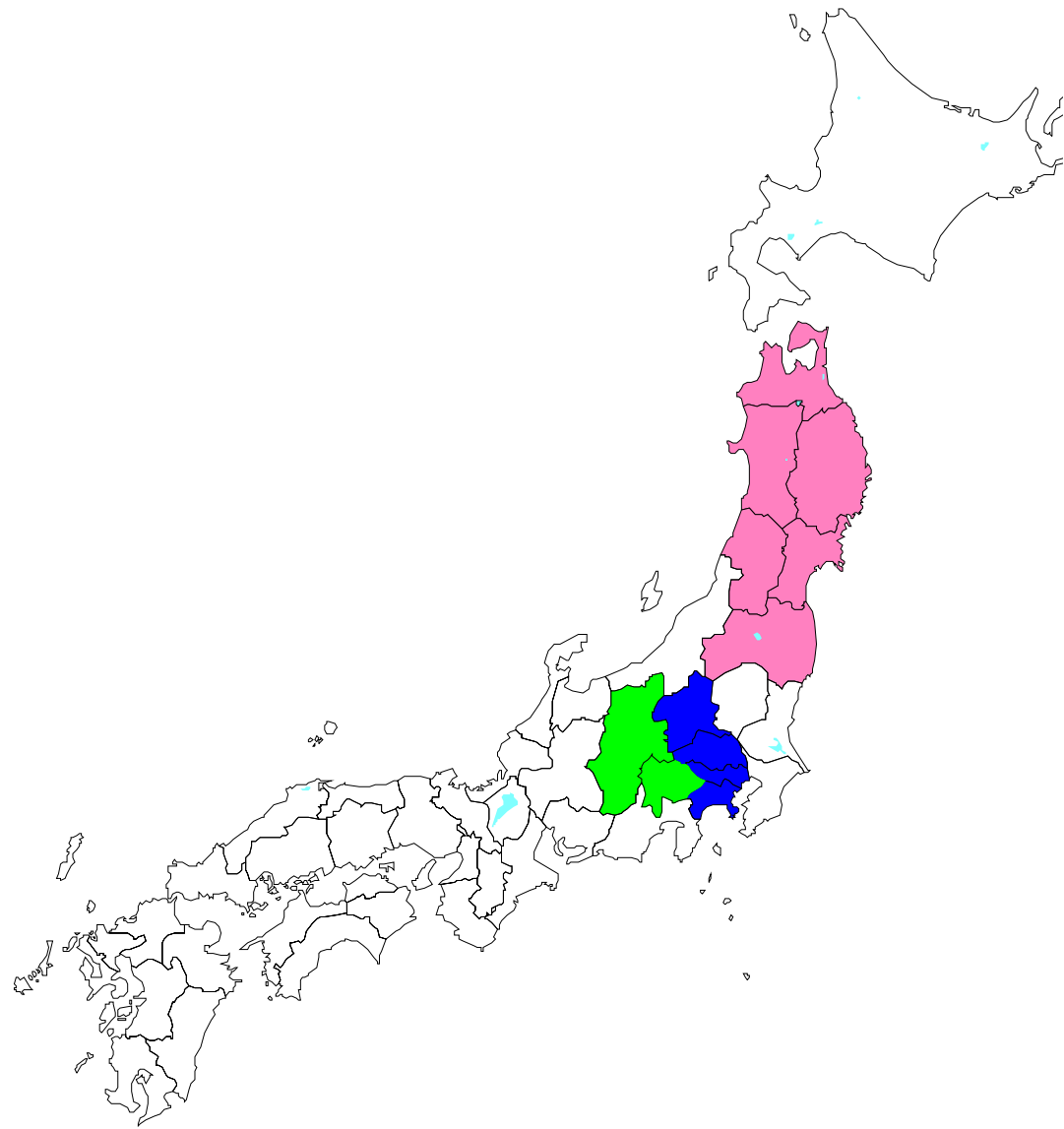
開港当初ごろの総輸出額に 対する生糸輸出額

年次	総輸出額 (千ドル)	生糸輸出額 (千ドル)	生糸輸出 割合(%)
1860(万延元)	3,954	2,595	65.6
1861(文久元)	2,683	1,832	68.3
1862(文久2)	6,305	5,422	86.0
1863(文久3)	10,554	8,824	83.6
1864(元治元)	8,997	6,162	68.5
1865(慶応元)	17,468	14,612	83.7

出典:横浜市史第二巻から作表

4 開港当初の 生糸の産地

開港ごろの主要生糸生産地



主な養蚕地帯

東北…奥州・羽州

関東…上州・武蔵

甲信…信州・甲州

開港当初の生糸は どこで生産されたか (%)

	奥州	上州	信州	武州	甲州	その他
文久 年間	46.3	20.6	10.3	5.1	5.1	12.6
明治 6	19.5	48.7	11.1	10.1	4.8	5.8
明治 12	18.0	26.6	28.5	11.8	7.4	7.7

出典：横浜市史 資料編1P367～369等から抜粋

5 横浜への 「絹の道」

時代と共に変化した絹の道

- ・ 陸 路 (開鑿による道路改修)
- ・ 水 運 (江戸時代から発達)
- ・ 陸運会社 (馬車輸送、明治5年許可)
- ・ 鉄 道 (明治17年～養蚕地帯への敷設)
- ・ トラック (戦後)

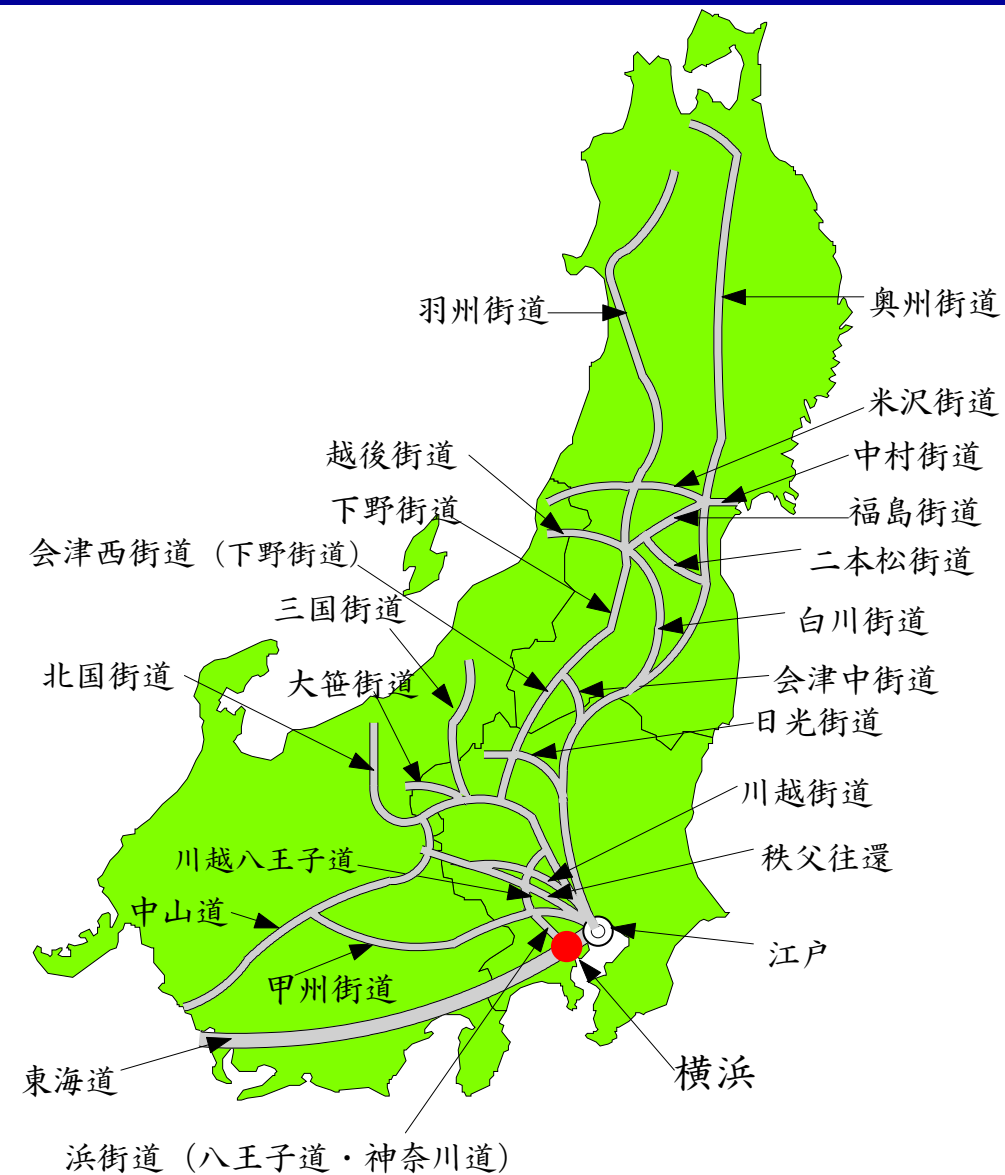
陸路による絹の道



八王子市鍵水の絹の道

各地から横浜への「絹の道」

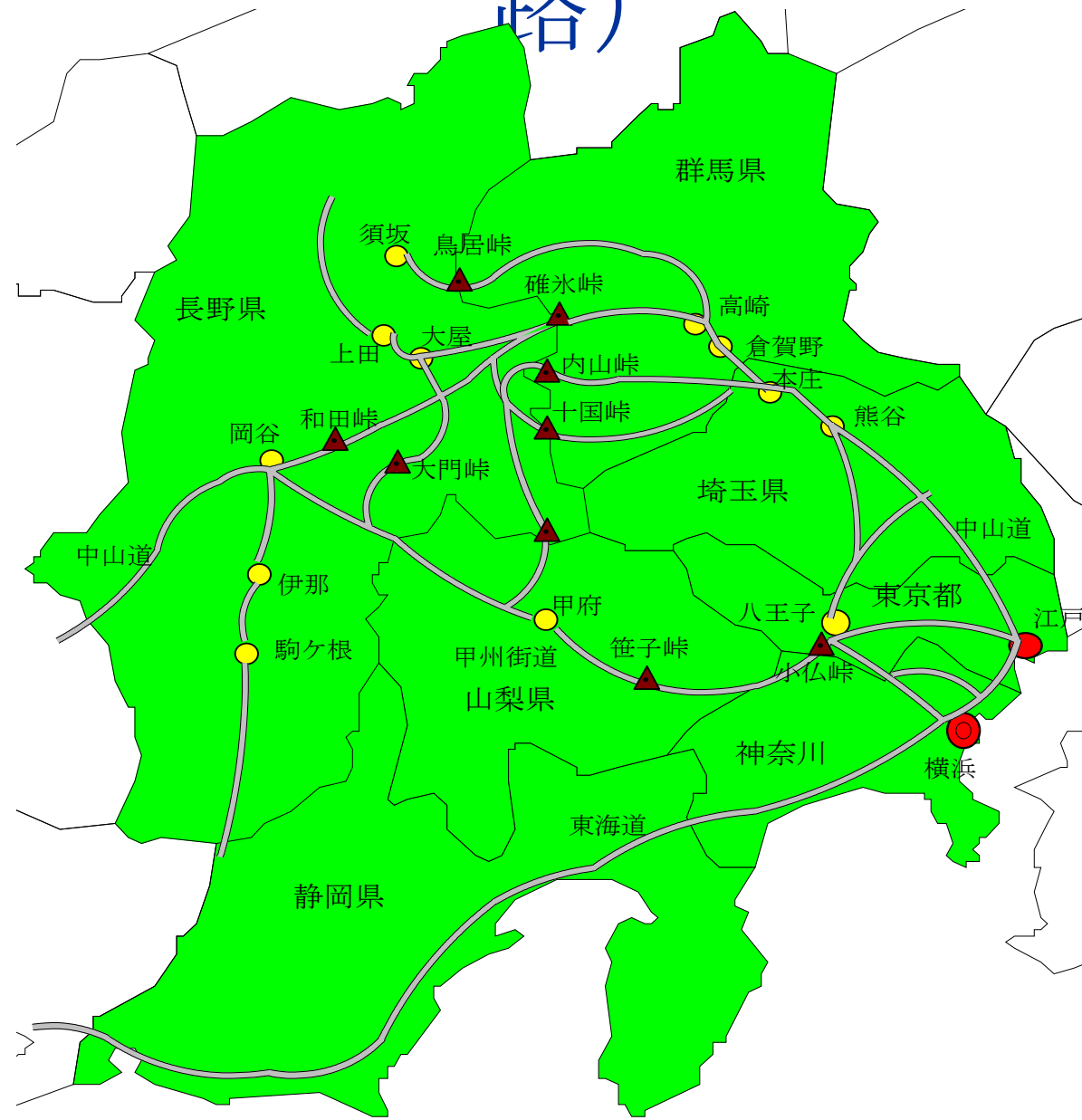
- ・ 養蚕農家からの道という道は絹の道



信州の絹の道



信州から横浜への絹の道(陸路)



水運による 絹の道

利根川水系の水運

・ 利根川水系の利用

往路…生糸・米麦・

織物・木材等

復路…塩・砂糖・

油・干魚・茶等

明治16年の埼玉・群馬の

生糸生産量435t

倉賀野・平塚河岸の

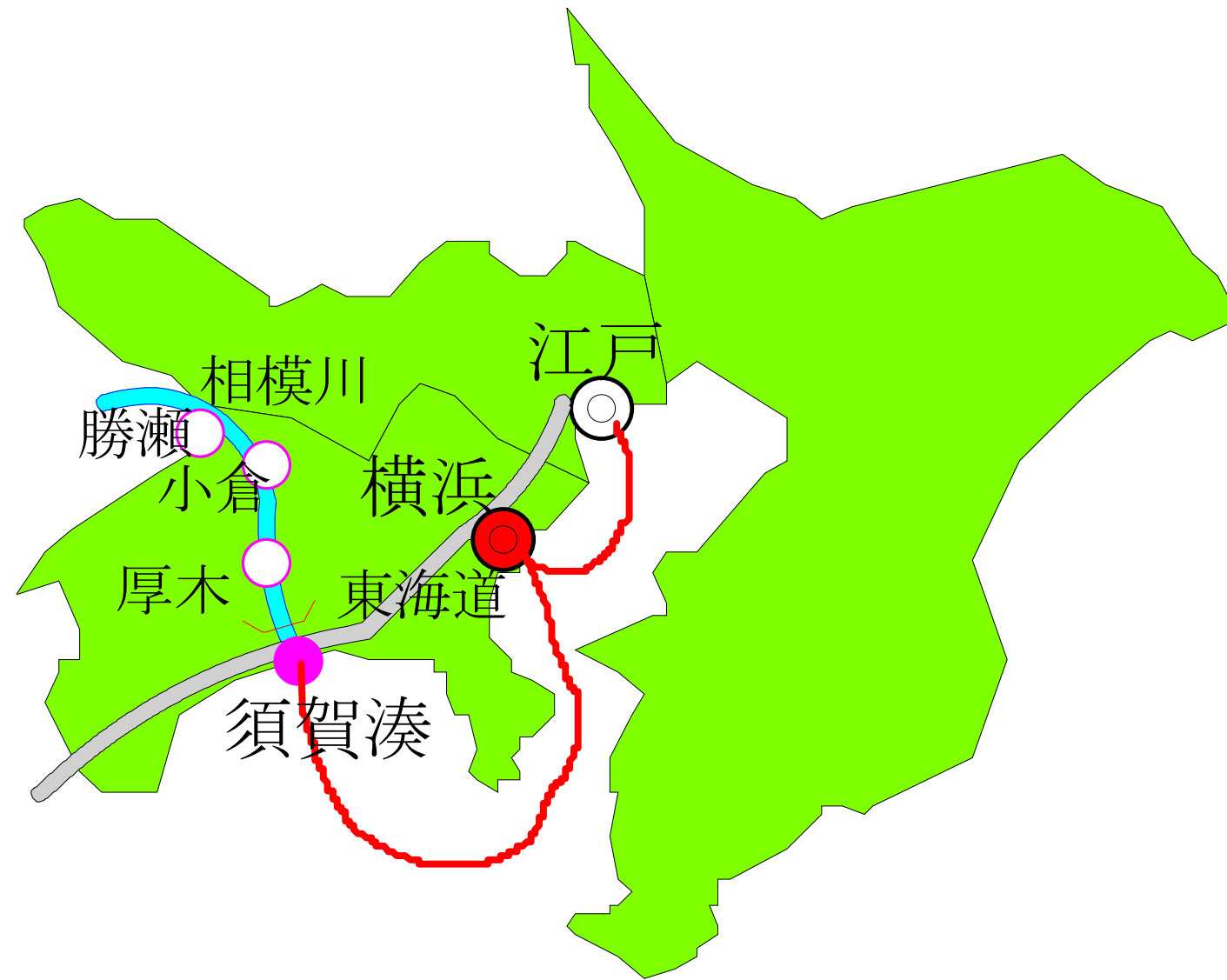
生糸積出量318t(約73%)



倉賀野河岸の史跡



相模川の水運



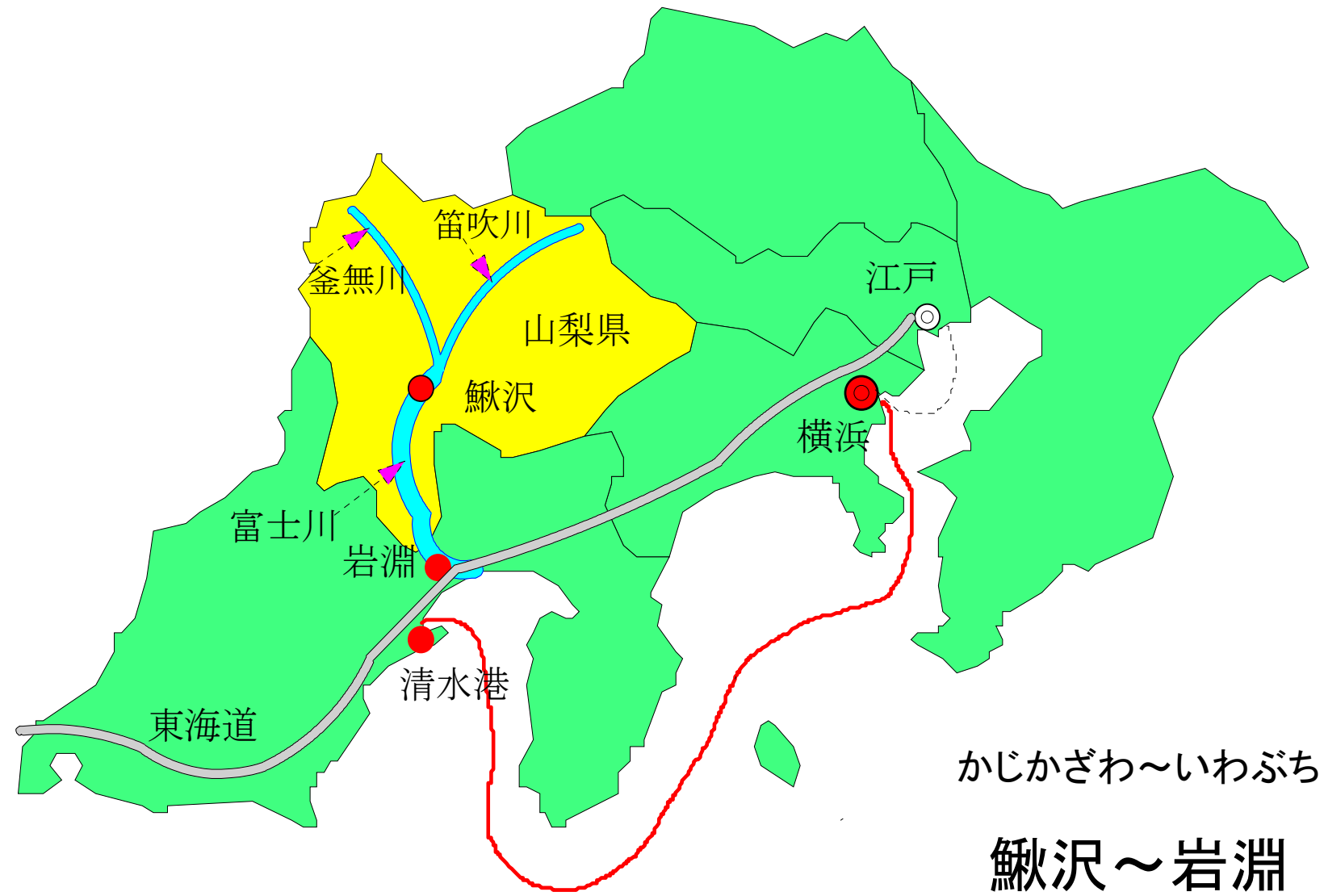
須賀湊の碑



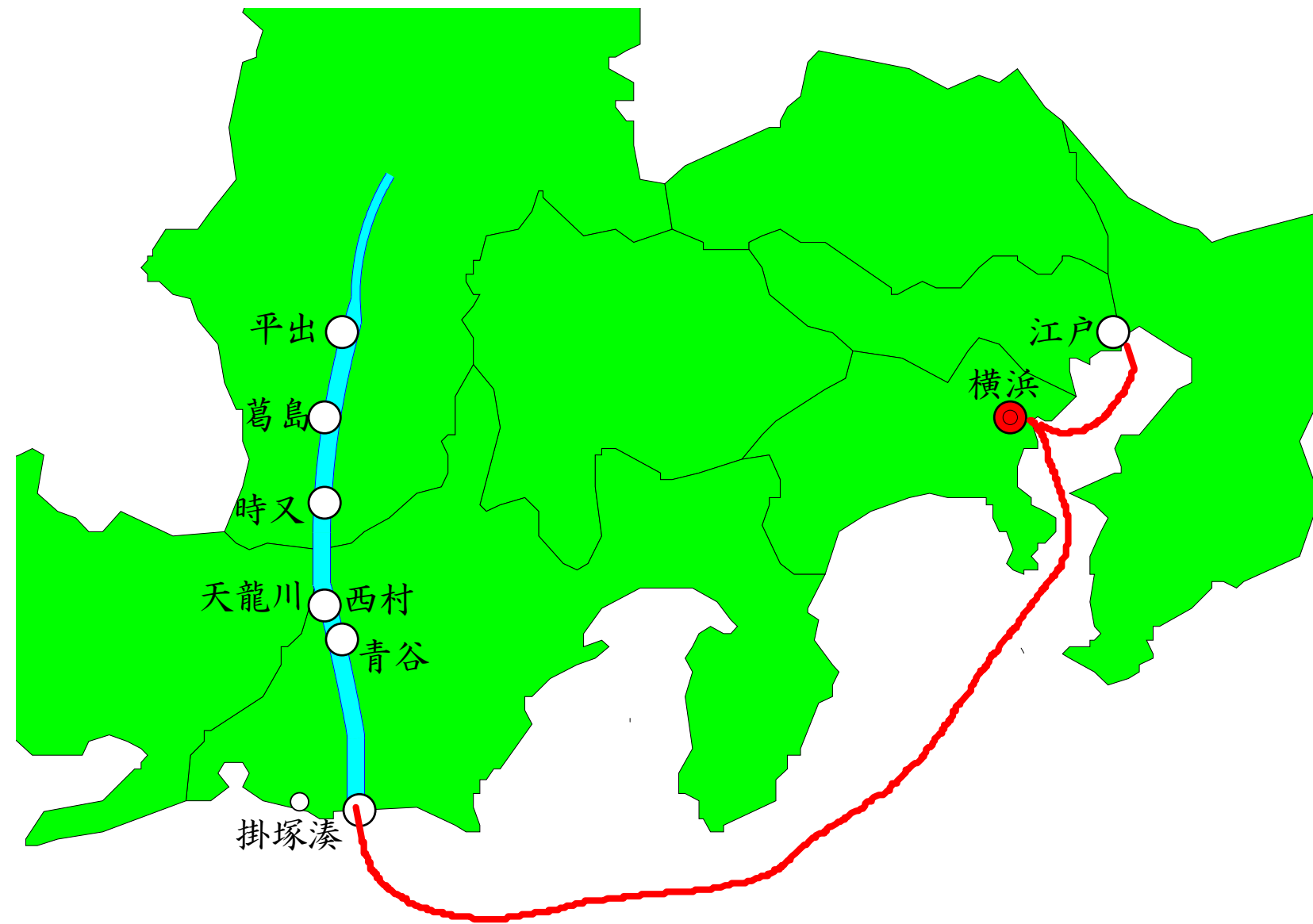
須賀湊の舟繋石



富士川の水運



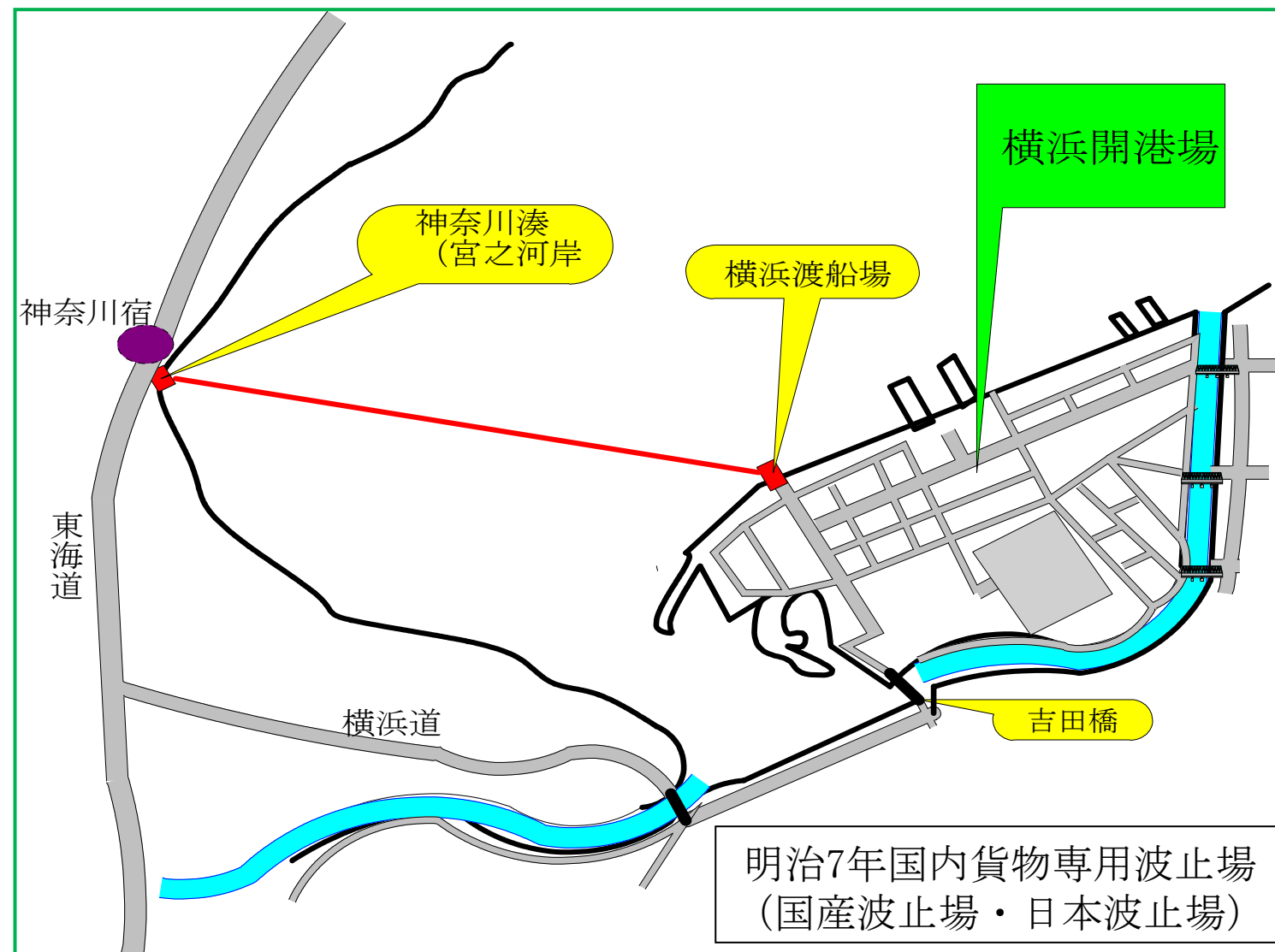
天龍川水運の想定図



天龍川の水運と中馬

- 徳川時代から水運開設
(米、柿、木炭など江戸へ)
- 中馬の制度が発達
水運業とライバル関係
(生糸の水運による輸送は不明)

五品江戸廻送令 発令ごろの生糸輸送



五品……雑穀・水油・蠟・呉服・糸

五品江戸廻送令布告と廃止

- ・ 布 告 万延元(1860)年3月
- ・ 無力化 元治元(1864)年9月
江戸問屋買取制度の廃止
- ・ 名実ともに廃止
慶応2(1866)年5月
産地での「生糸蚕種改印令」実施

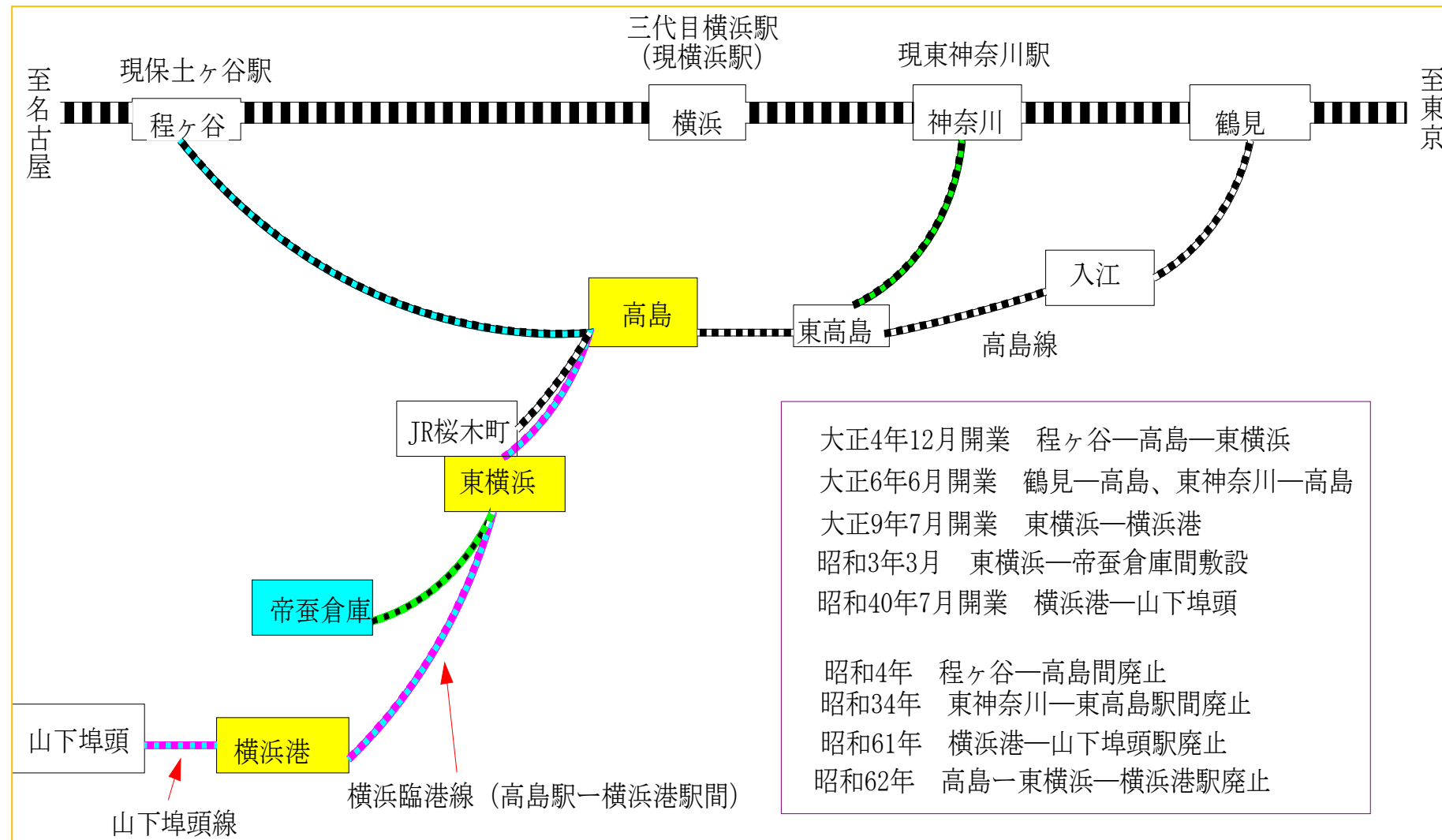
鉄道による 絹の道



鉄道の敷設と絹の道

- ・ 明治5(1872) 横浜-新橋開通
- ・ // 17(1884) 高崎線開通
- ・ // 20(1887) 東北本線(郡山・塩釜まで)
- ・ // 22(1889) 東海道線全線開通
- ・ // 24(1893) 東北本線全線開通
- ・ // 26(1893) 信越線全線開通
- ・ // 38(1905) 中央線開通(岡谷まで)
- ・ // 41(1998) 横浜線開通

横浜臨港線・高島線



鉄道の発達と信州の製糸業

- 関東・東北など各地の生繭を集荷



諏訪・須坂など信州の製糸業地帯へ輸送



- 日本一の生糸生産県(長野県)となる

6 生糸貿易国の 変化

日本の生糸はどここの国へ
運ばれて行ったか

* スエズ運河開通前

横浜 → 希望峰(アフリカ) 経由 →
ロンドン(英国)

* スエズ運河開通(1869年)後

横浜 → スエズ運河 経由
マルセイユ港 → リヨン(仏国)

明治時代の生糸輸出国 (輸出割合) (%)

年次 \ 国別	イギリス	フランス	アメリカ	その他
1873	47.2	32.2	0.6	20.0
1875	36.1	53.9	0.5	9.5
1881	18.9	56.5	24.2	0.4
1884	4.4	44.8	50.6	0.2
1890	0.5	32.0	66.0	1.5
1900	0.8	24.3	59.8	0.4
1905	0.0	15.3	74.9	0.1

米国の国別生糸輸入量割合

年次	フランス	イタリー	中国	日本	その他	合計	
						輸入量	割合
大正元	0.4%	10.4%	21.1%	67.4%	0.7%	187,237俵	100.0
〃 5	0.4	4.8	19.6	75.0	0.2	245,358	100.0
〃 10	1.2	6.8	21.1	69.9	0.7	342,885	100.0
〃 15	0.3	1.7	15.4	81.0	1.6	502,152	100.0
昭和 2	0.1	0.7	14.6	83.5	1.1	559,475	100.0

出典:昭和4年版 世界蚕糸絹業年鑑

わが国から米国への生糸輸出量

年次	生糸総輸出量	うち米国への輸出量 (総輸出量に対する割合)
昭和2	521,773 俵	483,905 俵 (92.7%)
〃 3	549,256	509,147 (92.7)
〃 4	580,950	563,068 (96.9)
〃 5	477,322	457,034 (95.7)

出典：昭和14年「蚕糸業要覧」

開港ごろの国籍別船舶貿易額 (輸出入合計額) (%)

年次 国別	1860	1861	1863	1864	1865
イギリス	55.3	64.3	80.7	92.5	85.9
アメリカ	31.7	21.5	6.7	1.4	1.5
オランダ	12.2	13.2	7.1	4.9	4.2
フランス	0.8	1.1	1.7	1.1	8.2
その他	0.0	0.0	3.8	0.1	0.2

**7 一攫千金を
夢見た
日本人商人たち**

横浜開港場に集まってきた 生糸商人たちは？

- ・ 一攫千金を夢見て全国から横浜へ集まってきた商人たち
- ・ 現実には甘いものではなかった
- ・ 朝は御大尽・夜は乞食
- ・ 生き残った商人たちは？

開港当初に活躍した生糸売込商 (1)
中居屋重兵衛

群馬県嬭恋村出身

安政6年4月横浜本町4丁目に出店

横浜きっての豪商(文久元～元治元)

銅御殿建設

取扱い品目:生糸・茶・蠟・水油

藩専売との結びつき(上田藩・紀州藩等)

「中居屋重兵衛店跡」記念碑



横浜市中区本町通り日生ビル脇

開港当初に活躍した 生糸売込商 (2)

氏名	内容
芝屋 清五郎	横浜出身 篠原忠右衛門と並ぶ大商人 幕府から初の蚕種輸出許可
篠原忠右衛門	山梨県笛吹市石和町出身 芝屋清五郎と並ぶ大商人 蚕種輸出で倒産

明治期に活躍した大生糸売込商（1）

<p>吉田幸兵衛 (吉村屋)</p>	<ul style="list-style-type: none">◎群馬県みどり市大間々町出身◎25歳の時横浜に出店◎横浜商法司為替御用達拝命◎藩専売との結びつき◎明治12年ごろ閉店
<p>茂木惣兵衛</p>	<ul style="list-style-type: none">◎群馬県高崎市出身◎1862(文久2)年横浜で開店 (野澤屋)(後の松坂屋)◎横浜為替会社頭取◎第七十四銀行等の頭取

明治期に活躍した大生糸売込商（2）

原善三郎	◎埼玉県児玉郡神川町出身 ◎1865(慶応元)年横浜で開店(亀屋) ◎横浜蚕糸外四品取引所理事長 ◎帝国議会議員・貴族院議員
澁澤喜作	◎埼玉県深谷市出身 ◎経営不振の吉田幸兵衛店引継 ◎連合生糸荷預所運動に参画頭取 ◎鉄工・肥料・運輸・商品取引・ 株取引など諸業界で活躍

明治期に活躍した大生糸売込商（3）

小野光景	◎長野県上伊那郡立野町出身 ◎横浜商法会議所会頭 ◎外村両平店引継生糸売込商参入 ◎県会議員、貴族院議員
若尾幾造	◎山梨県南アルプス市出身 ◎明治10年ごろ横浜で開業 ◎甲府市長若尾逸平の弟 ◎山梨・埼玉・神奈川で製糸工場

明治・大正期に活躍した 生糸売込商 **原富太郎** (三溪)

- ◎ 岐阜県岐阜市(旧羽島郡柳津町)生まれ
(青木久衛家の長男)
- ◎ 原善三郎孫娘と結婚(原姓)
- ◎ 旧官営富岡製糸場等入手
- ◎ 蚕糸恐慌時の第一次・第二次帝国
蚕糸株式会社社長、重役に就任
- ◎ 関東大震災時、横浜市復興会長等

三溪園



- ・ 1906(明治39)年自宅を三溪園と名付けて一般公開

8 貿易取引
馴れした
外国商人と
不馴れな日本人

外商の一方的な生糸取引

- ①外商へ見本生糸持参
- ②買取数量、価格口頭契約
- ③外商倉庫へ生糸全量搬入
- ④拝見（検査）
- ⑤秤量
- ⑥代金支払い

- 市況により搬入～
拝見まで期間延長
- 見本との比較により
難癖（取引拒否ペケ）
- 風袋増重・生糸過少
秤量
- 連合生糸荷預所事件
へ発展

外商との生糸取引

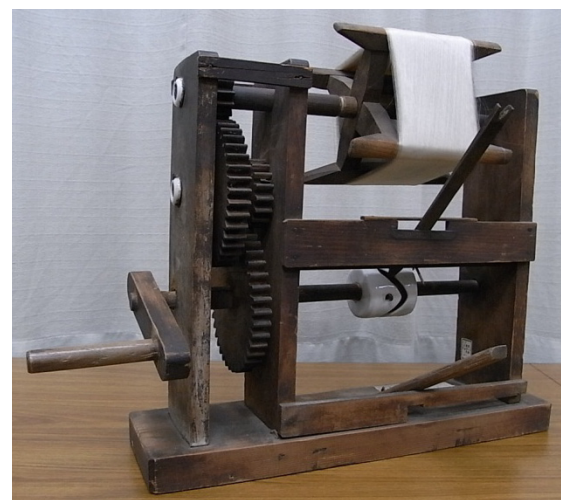
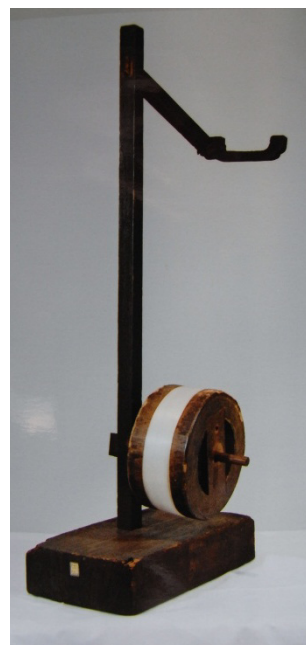


出典・「皇国養蚕図絵」シルク博物館所蔵

外国商館での生糸検査

9 開国当初の 国内の生糸 生産方法

開港当初の生糸は**丑首・胴繰り・座繰り**による製糸

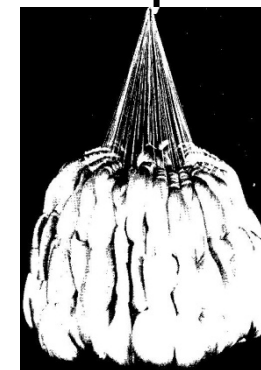


シルク博物館所蔵

10 粗製乱造の 生糸輸出問題

粗製乱造生糸の輸出（1）

粗製乱造生糸	乱造内容
リャン取り (二つ取り)	手荒く繰った2枠の生糸 2枠分を1総に巻取った生糸 (糸口が出ない不良)
ブツケ糸 (打付け糸)	切断糸を繋がず、水を付け 打ちつけて巻き取る
提げ糸の 増重加工	元結部分に①厚紙使用 ②厚紙に石灰漉き込み ③元結に鉛巻き込み



粗製乱造生糸の輸出（2）

粗製乱造生糸	乱造内容
増重加工生糸	ニガリ、砂糖の付着加工
玉繭混繰生糸	本繭に玉繭1個を入れて繰糸

11 器械製糸の始まり

わが国最初の器械製糸工場

- ・ 1870(明治3)年 前橋藩が建設
イタリー式繰糸機導入
(前橋市住吉町に同年6月3台、9月に岩神村に12台設置)
(速水堅曹・ 深沢雄象)
- ・ スイス人ミューラー雇用

民営の小野組築地製糸場創立

- ・ 明治3年10月 東京築地入船町に創立
- ・ (明治4年8月～6年6月まで操業)
- ・ (小野組の大番頭 古川市兵衛の発意)
(古川市兵衛は足尾銅山の新経営者として成功)
- ・ シーベル商会に依頼してミュラーを雇用
- ・ イタリー式繰糸機導入
- ・ 破産(明治7年)に伴い製糸器械は諏訪へ移転 (信州器械製糸の勃興)

小野組製糸場 (錦絵)



(シルク博物館所蔵)

粗製乱造生糸輸出と 官営富岡生糸場建設

- ・ カイセンハイメル (オランダ8番館) の申出
 - ◎外国人経営の製糸場建設要求
 - ◎伊藤博文は要求拒絶
 - ◎再度、外国人出資の工場建設要求
 - ◎伊藤博文は要求拒絶、
官営富岡工場 (民部省) 建設へ

官営富岡製糸場

1872(明治5)年開業

製糸棟



正門からの繭倉庫

工部省勸工寮 赤坂葵町製糸場創立

- 明治5年建築、同6年1月開業式・2月操業
（「**蚕史**」には**明治5年1月操業**開始とある）
- 工部省直営 ミュラー雇用、**イタリー式導入**
- **女工の繰糸技術伝習**（山梨・長野・新潟・福井・岡山・鹿児島県など）

北海道に 官営札幌製糸所創立

- ・ 1875(明治8)年
開拓使所管の製糸所として創立
- ・ 1877(明治10)年 農商務省所管となる
赤字経営続く
- ・ 1887(明治20)年 民間に貸出
- ・ 1888(明治21)年 民間に払い下げ

各地へ器械製糸技術普及事例

◎ 築地小野組のイタリー式

諏訪地方(明治5年8月小野組経営の深山田製糸場操業)、信州伊那地方・小布施・中野、福島県(明治6年)などへ

◎ 官営富岡製糸所のフランス式

信州松代方面へ(六工社 明治7年7月創業)
全国各地へ

◎ イタリー式とフランス式の折衷技術

上高井郡関菊之助(明治6年7月創業)
諏訪の中山社(明治8年6月ごろ操業)など

12 明治中期以降の 座繰製糸の状況と 器械製糸の発達

座繰製糸と器械製糸の生産量

(単位：千貫)

	座繰生糸	器械生糸		座繰生糸	器械生糸
明22	524	356	明35	725	1,067
〃 23	499	368	〃 38	631	1,207
〃 25	603	517	〃 40	692	1,636
〃 27	562	734	〃 42	715	2,025
〃 30	702	835	〃 44	824	2,398
〃 33	764	991	大元	731	2,693

出典：農林省累年統計表

座繰製糸場数

	10釜未満	10釜以上	総計
明治38	354,792	1,808	356,600
〃 43	328,806	1,226	330,032
大正 4	246,446	999	247,445
〃 9	189,894	891	190,785
〃 14	132,295	331	132,626
昭和 5	57,497	267	57,764
〃 10	38,283	173	38,456

出典：蚕糸業要覧(昭和14年7月)

横浜の器械製糸工場事例



シルク博物館所蔵

明治中～後期の主要製糸県の生糸生産割合(%)

	明治24	明治29	明治34	明治39	明治44
山形	5.9	4.8	4.5	5.7	5.4
福島	7.7	6.4	6.4	4.9	4.5
群馬	18.1	13.0	11.4	6.7	8.1
埼玉	4.1	3.8	4.6	6.2	5.5
長野	19.2	22.4	22.4	25.3	26.7
山梨	5.9	4.8	4.5	5.7	5.4
岐阜	5.0	4.4	4.3	4.8	5.6
愛知	1.5	3.0	3.9	5.2	7.4
全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

「農商務統計表」より作表

明治時代の長野県の器械製糸工場数

郡 別	10年	12年	16年	26年	郡 別	10年	12年	16年	26年
諏 訪	8	108	120	211	上高井	4	8	5	4
上伊那	2	62	97	24	下高井		3	7	8
下伊那		23	47	47	小 県	2	1	2	28
東筑摩	27	95	97	21	上水内		1	2	4
西筑摩		19	31	27	下水内		1		1
北安曇	5	20	26	11	更 級		4		4
南安曇		7	28	21	埴 科	1	3	5	11
北佐久	1	1	13	16					
南佐久		4	8	9	計	50	360	488	447

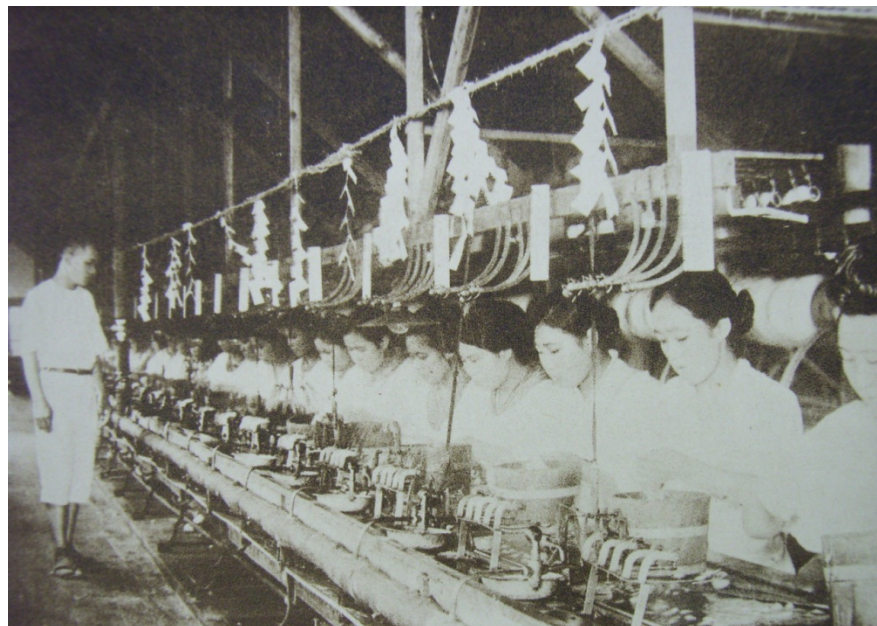
出典:横浜市史第三卷上P519より抜粋

巨大資本の製糸家8傑

	明治20 (100釜以上)	明治30 (300釜以上)	明治44 (1000釜以上)	大正10 (2846釜以上)
1	富岡製糸 (群馬)	三井工業 (東京)	片倉製糸 (諏訪)	片倉製糸 (諏訪)
2	矢島栄助 (甲府)	片倉製糸 (諏訪)	山十組 (諏訪)	山十組 (諏訪)
3	雨宮喜兵衛 (甲府)	窪田栄三郎 (松代)	小口組 (諏訪)	小口組 (諏訪)
4	勸業製糸場 (甲府)	小口組 (諏訪)	依田社 (小県)	郡是製糸 (京都)
5	片倉製糸 (諏訪)	依田社 (小県)	林組 (諏訪)	依田社 (小県)
6	中田常兵衛 (甲府)	六工社 (松代)	岡谷製糸諏訪	林組 (諏訪)
7	矢島善七 (甲府)	岡谷製糸 (諏訪)	越寿三郎 (須坂)	岡谷製糸 (諏訪)
8	仲沢紀 (甲府)	尾澤組 (諏訪)	尾澤組 (諏訪)	尾澤組 (諏訪)

出典:横浜市史第4巻上P58

昭和2年の製糸工場



純水館茅ヶ崎製糸所



片倉紡績八王子製糸所

シルク博物館所蔵写真

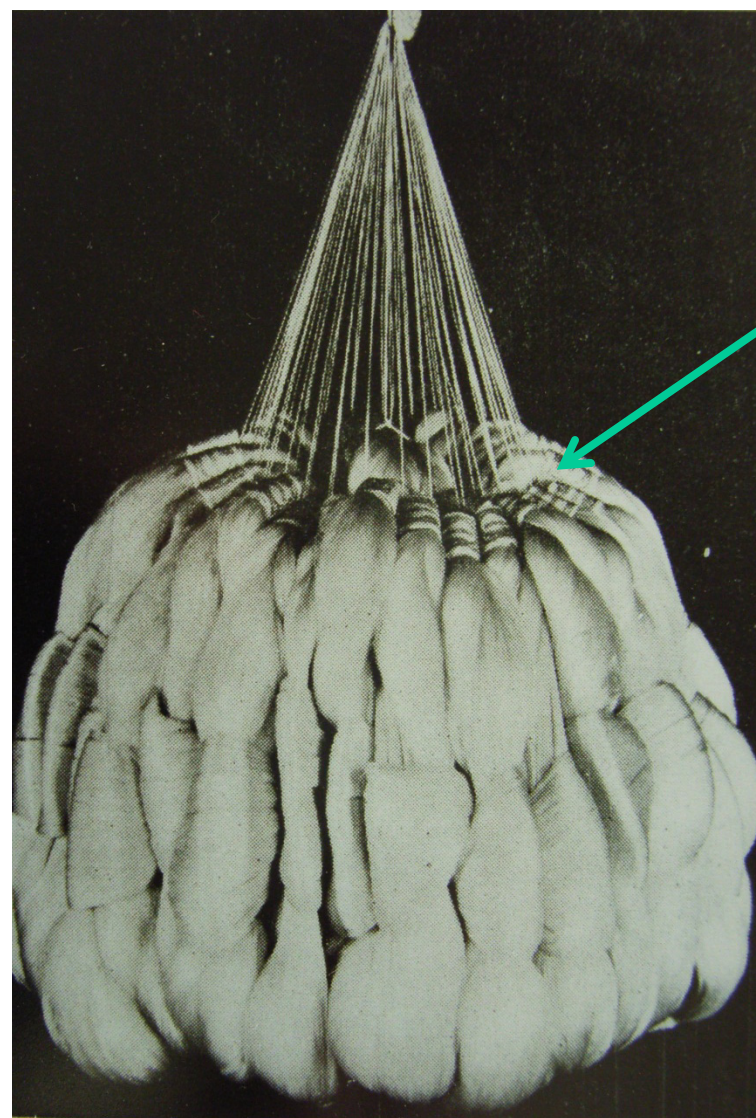
現在の製糸工場



13 生糸束装の 移り変わり

生糸の束装（1）

さげいと
提糸

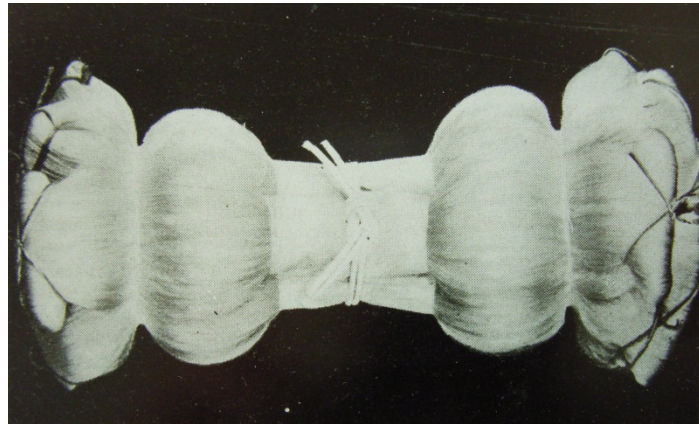


元結い

シルク博物館所蔵写真

生糸の束装（2）

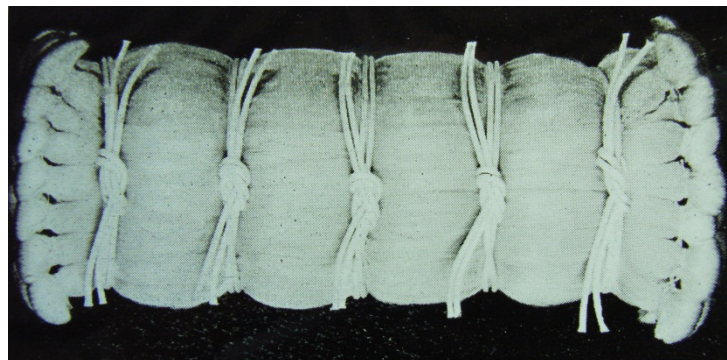
八王子島田本造り



掛田折返糸



浜付糸



美濃曾代糸



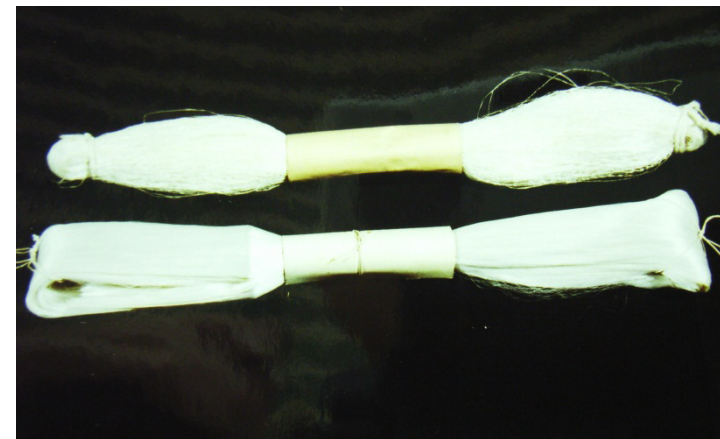
シルク博物館所蔵写真

生糸の束装 (3)

近江達摩糸



羽前鉄砲糸



三丹州糸



信州飯田糸

シルク博物館所蔵写真

生糸の束装（4）

猪口造り生糸



富岡製糸場の束装を、明治10年ごろに改良し、昭和はじめまで普及をした

(シルク博物館所蔵)

生糸の束装（5）

耳造り



改良造り(鐘桜式)



改良造り(粽式)

シルク博物館所蔵

生糸の束装（6）

太総造り



長手造り



シルク博物館所蔵

14 生糸検査 制度の確立

生糸検査所設置 愛称：「キーケン」

明治29年発足



設立当初



現在の横浜第二合同庁舎

(シルク博物館所蔵写真)

輸出用生糸の梱包



シルク博物館所蔵写真

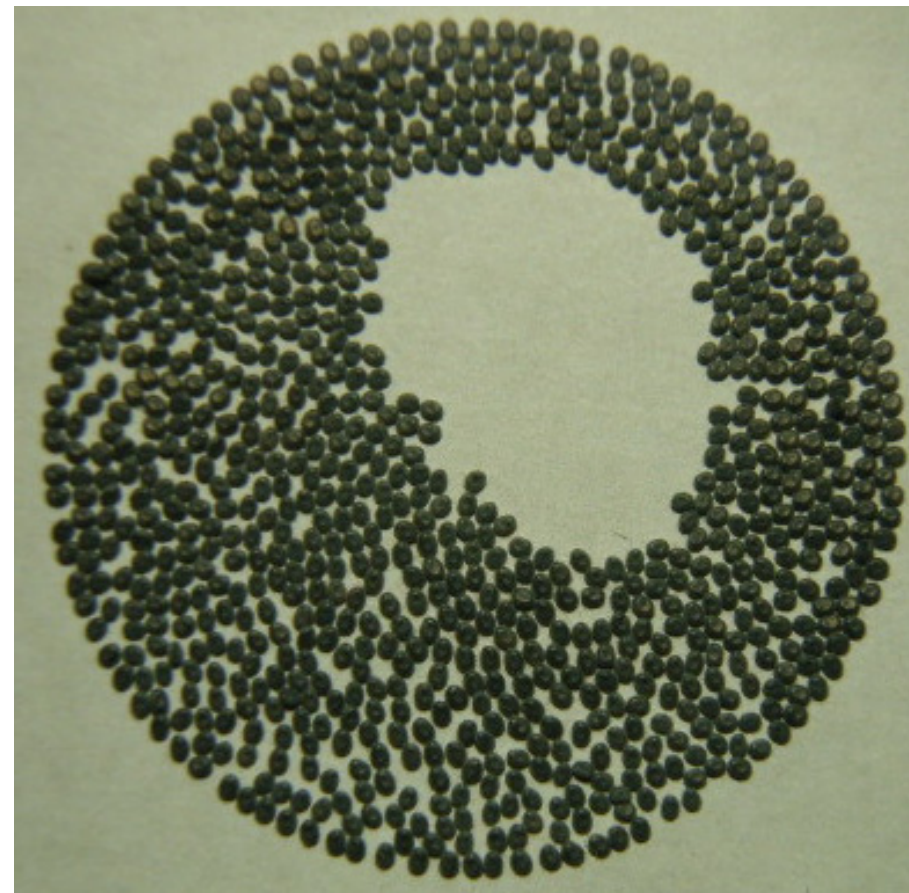
生糸の船積み風景



シルク博物館所蔵写真

15 蚕種輸出 の功罪

短命に終わった 蚕種輸出と逸話



横浜開港後も蚕種輸出禁止

輸出禁止の理由は

- ・ 国内の蚕糸業・織物業を
保護するため
- ・ 生糸貿易による外貨獲得のため
生糸貿易に支障をきたす

蚕種輸出禁止と密輸

- ・ 幕府の禁止措置にもかかわらず
盛んに蚕種を密輸(万延元年ごろから密輸)
- ・ 奉行所への蚕種輸出の出願
1865年(慶応元年)芝屋清五郎らが出願し輸出許可(国内の余剰蚕種の輸出に限定)

信州からの蚕種密輸

◎ 小県神科村金剛寺渡辺平太左衛門の記録

開港間もなく横浜外国商館オパシヤ商会等に蚕種販売。文久2年頃の外国商館で外人と撮影した写真あり(開港と生糸貿易 中巻P460~461)

◎ 東筑摩郡洗馬村伊藤新右衛門による

安政6年外国との蚕種取引契約書

イタリー和蘭への蚕種取引契約書(同上P462)

欧州の日本蚕種輸入量

年次	輸入枚数	年次	輸入枚数
文久元	50 枚	元治元	450,000 枚
文久2	約1,000	慶応元	3,000,000
文久3	3,000	慶応2	1,500,000

出典：農商務省農務局「伊佛之蠶絲業」

蚕種輸出禁止ごろの ヨーロッパの養蚕状況

- ・ 1850年代ごろ ヨーロッパでは
蚕の微粒子病が万延
- ・ フランス、イタリーの養蚕業は
壊滅的被害

フランスの繭生産量

1853 (嘉永6)年	25, 800 ^{トン}	(100. 0)
1865 (慶応元)年	約 420 ^{トン}	(1. 6)

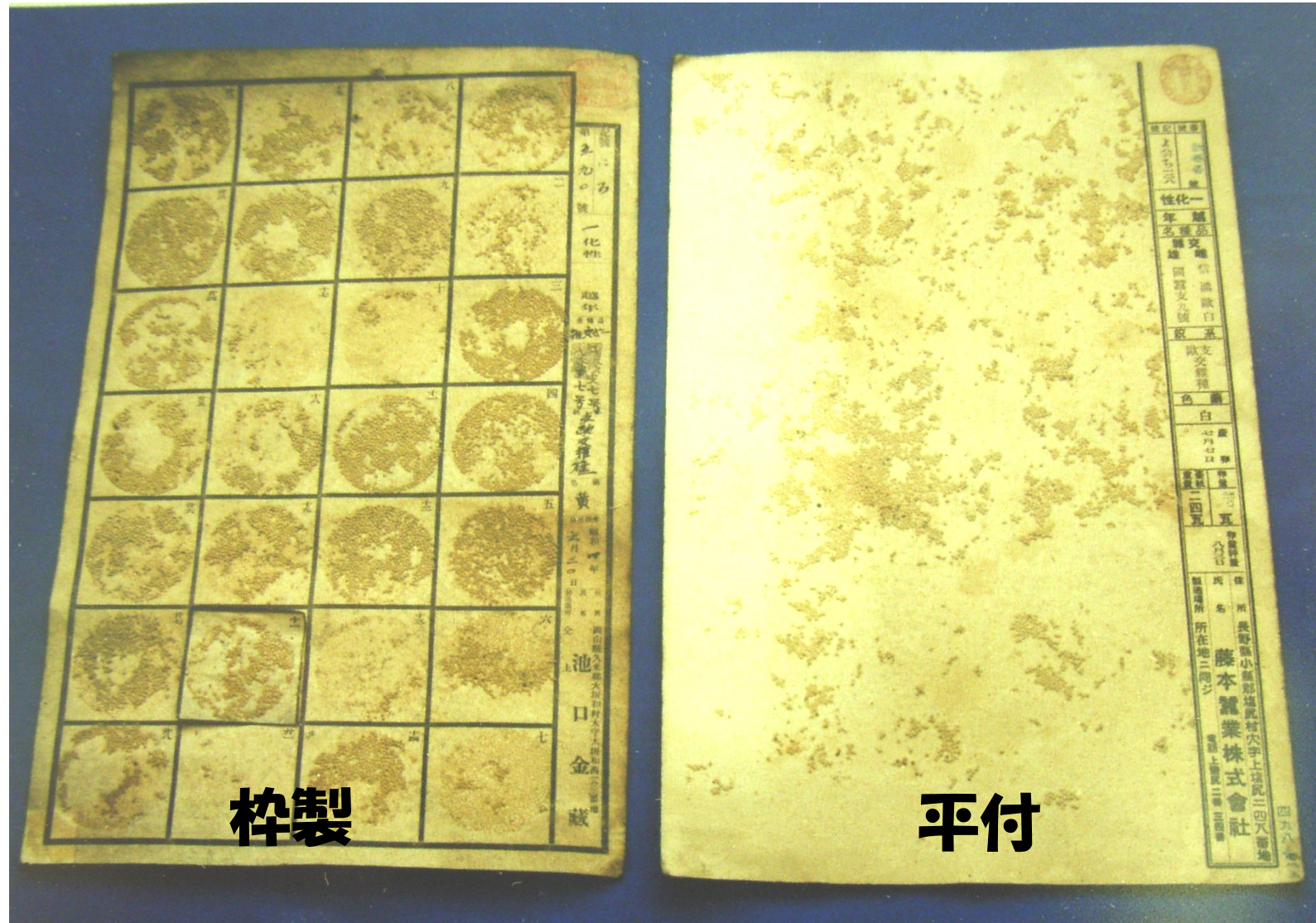
ナポレオン3世と名馬 (1)

- ・ フランスは幕府に蚕種買入を申入れ
- ・ 幕府は蚕種の禁輸政策実施中
- ・ 仏馬26頭と交換することにし形式上寄贈(15,000枚)とした
- ・ ベルデンシーが蚕種を携帯し仏国へ
- ・ 1861(文久元)年、ナポレオン3世から幕府に仏馬26頭を寄贈される

ナポレオン3世と名馬 (2)

- **横浜**(1861文久元年) 26頭
↓
- **江戸竹橋官厩舎** (アラビヤ種ハレー号)
↓
- **駒場農場 → 駒場農学校**
(東京農林学校 農科大学)
↙
- **上野動物園**(明治24~27年)
(38・39歳 = 人間の120歳以上)

蚕卵紙



シルク博物館所蔵

明治前期の蚕種輸出枚数

年次	輸出枚数(枚)	年次	輸出枚数(枚)
明治1(1868)	1,886,320	明治13(1880)	530,452
〃 3(1870)	1,397,846	〃 15(1882)	177,240
〃 5(1872)	1,287,046	〃 17(1884)	59,787
〃 7(1874)	1,335,465	〃 19(1886)	4,785
〃 9(1876)	1,018,525	〃 21(1888)	755
〃 11(1878)	887,767	〃 23(1890)	7,893

出典:横浜市史 第三卷上 P466

上田からの明治初期の 蚕種海外輸出量

年次	本邦輸出量 (A)	上田の輸出量 (B)	B/A × 100
1870(明治3)	1,397,846	627,000	44.9
1872(" 5)	1,287,046	286,909	22.3
1873(" 6)	1,418,809	287,730	20.3
1874(" 7)	1,335,465	408,681	30.6

出典：横浜市史第三卷上 P 466
蚕都上田ものがたり P 31

蚕種取引に溺れた篠崎忠右衛門

年次	経営状況等
1862(文久2)	生糸貿易の波に乗り成功
1864(元治元)	綿・生糸貿易で飛躍的發展
1865(慶応元)	7月蚕種販売許可され、甲州・信州の一部の蚕種を購入
1867(慶応3)～ 1869(明治2)	蚕種ブームに乗り経営絶好調 明治初年に旅館・両替屋・質屋等営業
1870(明治3)	6～7月信州・飛騨で蚕種購入。普仏戦争によって3年後半から経営状況大不況に陥る
1871(明治4)	蚕種大暴落
1872(明治5)	砂糖取引

出典:横浜市史第二巻P577～616

亀善(原善三郎)の上田地方荷主への 貸金証文事例 (竹内造酒平家所蔵資料)

年 月	貸付先	貸付額	抵当或いは返済契約
明治3年5月	上田・紺屋町 綿屋半兵衛	300両	原店へ蚕種出荷
〃 3年 6月	〃 堀内熊八	700	原店へ蚕種出荷
〃 3年 6月	房山村 伝五郎	1,000	原店へ蚕種出荷
〃 3年 8月	〃 喜兵衛	400	200両返金、糸出荷
〃 4年 7月	上沢村 竹内富治	80	蚕種
〃 4年 9月	〃 竹内勝右衛門	230	
〃 5年 5月	長瀬村 竹花友五郎	25	蚕種
〃 5年 7月	上洗馬村 堀内仙七郎	1,000	小作入米29.5俵

出典：横浜市史第三卷上P574から抜粋

明治6年主な産地別輸出蚕種量

国 別	輸出蚕種量	国 別	輸出蚕種量
信濃国	550,000枚	越後国	17,867枚
武蔵国	152,859	磐城国	17,725
羽前国	151,028	羽後国	7,913
上野国	134,926	下野国	7,093
岩代国	117,837	越中国	6,516
甲斐国	48,639	下総国	6,143
近江国	35,772	摂津国	5,127

出典：日本蚕糸業史第3巻蚕種史P121～122

明治19年主なる蚕種生産地

府県名	製造者数	製造枚数	府県名	製造者数	製造枚数
長野	8,054	1,013,429	山形	1,925	72,943
滋賀	857	453,485	福井	218	31,171
福島	3,999	411,848	宮城	848	22,745
埼玉	1,368	201,369	新潟	2,952	19,275
群馬	1,419	146,400	岩手	611	7,038
富山	512	104,824	福岡	552	6,484
山梨	1,730	85,742	高知	546	5,169

出典：日本蚕糸業史第三巻「蚕種史」P151

明治41年主なる蚕種生産地

府県名	製造者数	製造枚数	府県名	製造者数	製造枚数
長野	4,805	2,606,152	滋賀	343	202,672
福島	1,219	519,961	山形	428	186,205
群馬	738	441,374	静岡	274	167,749
愛知	551	414,415	宮城	184	129,402
岐阜	484	375,004	東京	314	125,716
埼玉	550	333,222	京都	229	124,260
山梨	485	246,202	新潟	290	106,320

出典：日本蚕糸業史第三卷『蚕種史』P153

昭和3年主なる蚕種生産地

府県名	製造者数	製造蛾数	府県名	製造者数	製造蛾数
長野	1,815	165,370,886	愛媛	51	33,776,669
愛知	262	71,862,098	京都	43	29,886,856
福島	655	47,363,449	熊本	92	24,557,544
静岡	205	44,913,963	山梨	272	20,732,290
群馬	433	44,683,092	山形	258	20,252,796
岐阜	357	43,387,133	東京	199	18,562,470
三重	209	41,763,061	和歌山	56	18,292,318
埼玉	336	37,294,286	高知	90	15,683,031

出典：日本蚕糸業史第三卷「蚕種史」P144～145

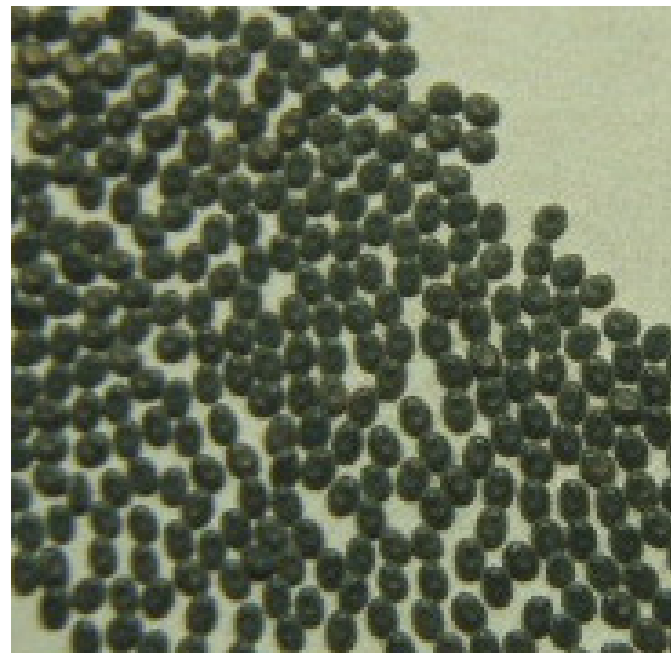
昭和5年長野県塩尻村の 蚕種製造量 (枚)

区別	柶製	平付	計
上塩尻	279,267	46,070	325,337
下塩尻	78,658	21,776	100,434
秋和	71,407	14,677	86,048
計	429,332	82,523	511,819

出典:長野県蚕糸業外史 中編 P281

まがい物の蚕種輸出

- ・ 悪いことをした一部の蚕種製造業者
(事例： 居留地47番地のチークロ、手付金1千両を京都生何某へ)



本物の蚕種



菜種を貼ったまがい物

蚕種の輸出先と輸出量

(単位1,000枚)

	イタリー	フランス	その他	合計
明治6	819.1	445.8	145.8	1410.7
〃 7	800.2	434.6	100.6	1335.4
〃 9	675.2	163.8	179.6	1018.6
〃 13	398.0	131.2	1.3	530.5
〃 15	132.6	44.3	0.4	177.3
〃 17	45.4	14.0	0.4	59.8
〃 18	19.6	22.0	0.1	41.7

出典:横浜市史第3巻上 P468から作表

欧州の蚕種輸入量（1）

（単位1,000枚・イタリー通貨リラ）

年次	欧州の輸入量	1枚当たりの 日本価格	1枚当たりの 欧州価格
1864(元治元)	450	6.5	14.7
1865(慶応元)	3,000	5.5	8.5
1866(慶応2)	1,500	10.0	12.4
1867(慶応3)	950	18.0	22.5
1868(慶応4)	2,400	15.0	21.0

出典：農商務省農務局「伊佛之蠶絲業」大正5年発行

欧州の蚕種輸入量（2）

（単位1万枚・リラ）

年次	欧州の輸入量	1枚当たりの 日本価格	1枚当たりの 欧州価格
1868(明治元)	240	15.0	21.0
1869(〃 2)	140	20.0	26.0
1870(〃 3)	130	15.5	20.0
1871(〃 4)	135	12.0	12.5
1872(〃 5)	125	16.5	24.0

出典：農商務省農務局「伊佛之蠶絲業」大正5年発行

欧州の蚕種輸入量 (3)

(単位10,000枚・リラ)

年次	欧州の輸入量	1枚当たりの 日本価格	1枚当たりの 欧州価格
1873(明治6)	145 万枚	14.0	20.0
1874(〃 7)	130	7.0	12.5
1875(〃 8)	75	9.0	24.0
1876(〃 9)	160	12.0	22.0
1877(〃 10)	116	5.0	9.0
1878(〃 11)	92	5.5	9.0
1879(〃 12)	81	4.5	14.75

出典:農商務省農務局「伊佛之蚕糸業」大正5年

生産過剰の輸出用蚕種の処分

年次	出荷量	焼却・すり潰し	積み戻し
明治7	1,765 千枚	446 千枚	45 千枚
〃 8	799	1	129
〃 9	1,193	—	417
〃 10	1,580	312	271
〃 11	900	180	—

出典:藤本実也著「開港と生糸貿易」中巻から作表

16 関東大震災と 焼失生糸問題

関東大震災と横浜

- ・ 1923(大正12)年 9月1日 M7.9
- ・ 死者行方不明 104,000人余
- ・ 住宅・道路・鉄道・ 港湾等壊滅的被害
- ・ 55,600軒余の生糸焼失

焼失生糸の補償問題

種 別	焼失量(梱)	価額(円)
問屋・銀行保管中	31,813	34,994,300
輸出商引込み中	6,548	7,202,800
看貫済み	4,329	4,761,900
輸出商手持ち	11,096	12,205,600
輸送中	1,821	2,003,100
合 計	55,607	61,167,700

出典:日本蚕糸業史第1巻「生糸貿易史」P408～409から作表

焼失生糸の産地

55,600梱の大半は長野県産

大正12年10月12日(於:長野市)
長野県生糸同業組合連合会臨時総会開催
焼失生糸の挙国一致の解決を決議

10月16日上京し横浜問屋業者と交渉開始

焼失生糸の最終的妥結

最終的妥結 大正15年5月

調停者： 渋沢栄一・志村源太郎・牧野忠篤
経済界 蚕糸中央会 大日本蚕糸会

焼失生糸の負担割合

保管状況	製 糸	問 屋	輸出商
銀行・問屋保管	8 割	2 割	
輸出商引き込み中	6 割	2 割	2 割
輸出成立済み			全 額

100斤当たり2千円 看貫済み5年間・その他8年間支払

関東大震災後の復興と蚕糸の動き

- ・ 横浜貿易復興会設立 (原富太郎理事長)
- ・ 横浜市復興会設立 (原富太郎会長)
- ・ 港湾、鉄道等の復旧
- ・ 生糸倉庫の確保 (保税倉庫の利用)
- ・ バラック施設の「荷造り場」建設
- ・ 焼失した横浜生糸検査所の再建
- ・ 神戸市生糸検査所の設置と
神戸からの生糸輸出の動き

17 押し寄せる 経済不況と 生糸価格の暴落

生糸価格大暴落の時期 (1)

年次	日本	欧米
元治元 (1864)	生糸輸出量減退 輸入超過	欧州の経済不況？
慶応3 (1867)	生糸取引価格下落	欧州の経済不況？
明治4 (1871)	蚕種・生糸取引 価格暴落	フランスが輸入停止 (明治3年普仏戦争)

生糸価格大暴落の時期（2）

年次	日本	欧米
明治17 (1884)	松方デフレ	前年からの世界的不景気
明治23 (1890)	欧米の不況が影響	欧米諸国の金融逼迫、 仏国生糸輸入禁止
明治26 (1893)	米国の購銀条例廃止の影響	米国の購銀条例廃止

生糸価格大暴落の時期（3）

年次	日本	欧米
明治29 (1896)	日清戦争勝利の 反動不況	米国内は経済不況 で破産事件多発
明治33 (1900)	為替相場下落、 内地消費不振	米大統領選で政争 激化、絹物離れ現象
明治40 (1907)	米国不況の影響	米国の経済恐慌 絹物工場激減

生糸価格大暴落の時期（４）

年次	日本	欧米
大正 3 (1914)	欧州向け生糸輸出停止、 第一次帝国蚕糸株式会社設立	第一次世界大戦開始、 欧州は経済恐慌に陥る
大正 9 (1920)	大恐慌、 第二次帝国蚕糸株式会社設立	米国株式大暴落 ニューヨーク生糸相場大暴落
昭和 4 (1929)	世界大恐慌の影響はじまる	ニューヨーク・ウォーク街の株式大暴落し世界大恐慌はじまる

18 世界第一位の 生糸輸出国へ

生糸生産量及び輸出量の変化

年次	生産量(俵)	輸出量(俵)	輸入量(俵)
安政 6(1859)	—	3,686	—
明治42(1909)	181,391	134,694	—
大正14(1925)	517,770	438,449	—
昭和 4(1929)	705,775	580,950	—
昭和37(1962)	331,601	77,448	はじめて輸入1
〃 50(1975)	336,146	はじめて輸出0	41,078
平成20(2008)	1,588	—	213,000

19 輸出力を高めた 蚕糸技術 (実用化事例紹介)

総合的に積上げた蚕糸技術

- **桑** (土壤、肥培管理、品種育成、病理など)
- 蚕種 (保護、生理、病理、品種育成など)
- **蚕** (飼育法、生理、病理、上蔟法など)
- 製糸 (煮繭・繰糸法・繰糸器械開発等の開発など)

外山亀太郎博士と第一代交雑種

◎外山博士が第一代交雑種の優れることを提唱
蚕業新報(1906年)158号
「蚕種類の改良」
蚕種論 (1909年)

◎国立原蚕種製造所の取組み
(第一代交雑種の実用化)

優良品種育成事例

国蚕日1号×国蚕支4号

国蚕欧7号×国蚕支7号

蚕品種改良の跡

	飼育日数 (日・時)	繭重 (g)	繭糸長 (m)	生糸歩合 (%)
明治	34・17	1.20	598	10.5
大正	29・07	1.67	780	12.4
昭和初期	28・16	1.70	982	14.6
現在	28・03	2.20	1,300	20.8

出典：シルク博物館資料

人工孵化法の実用化

年 代	人工孵化方法	研 究 者
明治20 年ごろ	人工孵化法の 研究始まる	
明治32	塩素ガス接触	川島勝次郎
〃 35	塩酸浸漬実験	横田長太郎ら
〃 44	塩酸浸漬実験	荒木武雄・三浦英太郎ら
大正 2	塩酸浸漬実験	荒木武雄・三浦英太郎・ 高瀬慶作ら
〃 3	加熱希塩酸法 確立 (加温浸酸法)	小池弘三 (愛知蚕試)

製糸技術の向上

器械製糸の発達

- ・ 器械製糸始まりは前橋藩のイタリー式
- ・ イタリー式（東京築地の小野組）
（勸工寮赤坂葵町製糸場）
- ・ フランス式（群馬富岡の官営製糸場）
- ・ 信州諏訪式器械製糸の発達（小野組の繰糸法が発端）（稲妻式ケンネル）
- ・ （器械製糸の始まりごろの生糸の優劣は人力7分・器械力3分で女工の腕次第の時代）
- ・ 御法川式多条繰糸機の発明
（1925年完成、30数年に及ぶ研究の結果）

20 絹物類の輸出

絹物類輸出初期の状況

年次	輸出総額	絹物類 輸出額	輸出総額に対する 絹物類輸出額
明治11	25,988千円	5千円	0.0 %
〃 15	37,721	95	0.3
〃 20	52,407	1,481	2.8
〃 25	91,102	8,276	9.1
〃 30	163,135	13,660	8.4
〃 35	258,303	31,801	12.3
〃 40	432,412	37,846	8.8

出典：横浜市史第4巻上P305 (注) 絹織物と絹製品を一括して絹物類と表示

絹物類の輸出内訳

年次	絹物類総額	うち羽二重	うち手巾
明治18	270千円	... %	... %
// 20	1,481	...	77.4
// 25	8,276	48.7	42.2
// 30	13,660	69.8	24.8
// 35	31,801	77.6	9.9
// 40	37,846	77.0	14.0
大正元	36,440	73.8	12.9

出典：横浜市史第4巻上P307から作表

羽二重の輸出先

(単位:千円)

年次	仏	米	英	香港	印度	濠
明治24	863	245	83	38	4	...
" 25	2,172	1,629	79	79	7	4
" 30	2,663	3,538	747	938	1,109	125
" 35	5,843	5,468	7,480	1,301	2,287	548
" 40	6,684	7,945	6,298	21	4,140	1,842
大正元	7,698	3,224	4,599	64	5,961	2,142

出典:横浜市史第4巻上P308から作表

羽二重の主要な産地の 年次別生産額 (単位:千円)

年次	福井	石川	福島	新潟	富山	群馬	栃木
明治21	53	611	...
" 25	2,779	1,222	...
" 30	7,400	1,150	666	124	786	3,183	2,116
" 35	10,800	5,187	2,692	644	1,286	2,043	169
" 40	14,052	10,901	4,489	2,074	970	1,279	373
大正元	20,173	9,049	3,593	2,870	1,560	336	0

出典:横浜市史第四巻上P313

21 わが国の
スカーフ
発祥の地
横浜

世界で最も古いスカーフ

漢～晋時代

新疆ウイグル自治区民豊県出土

紅藍色菱格紋頭巾(チェックの絹スカーフ)

**わが国の
スカーフの起こりは
ハンカチーフ製造**

ハンカチーフの呼び名

てはば
手巾

はなふ
鼻拭き

ハンカチーフ製造の始まり

- 元治年間(1864~1865) 桐生で織った縮緬
を加工し加太八兵衛商
店販売
- 慶応2年(1866) 桐生で織った琥珀織を
加工し販売
- 明治4年(1871) フランスから見本取り
寄せ加工して販売
- 明治6年(1873) 官許横浜毎日新聞輸出
欄に「手巾67枚」

開港当初の2大絹物商

加太八兵衛商店

(開港と同時に横浜で開店)

攘夷論者の浪人による営業妨害で閉店
加太八兵衛は縁故者椎野庄兵衛に
営業権譲渡

椎野正兵衛商店

ウィーン万国博覧会と 手巾輸出

明治6年(1873)

ウィーン万国博覧会開催

業界代表出席

椎野正兵衛・随行者椎野賢三

ヨーロッパの絹業視察

当初の輸出手巾製品

白生地

無地染め

手巾の捺染・刺繍技術の発達

明治10年後半～

椎野正兵衛の**絵ハンカチ**

明治20年代～（大正・昭和初期全盛）

刺繍ハンカチ

紙型捺染...**型紙使用**

木版捺染...**錦絵の木版応用**

大正末期の 木版捺染と紙型捺染手巾



木版捺染



紙型捺染

シルク博物館所蔵

紗張り捺染の発達

紗に漆を塗り型紙を補強して捺染

大正末期ごろ～

糊染（餅粉に染料を入れた糊）

刷毛染（刷毛で染料を塗る）

長生地に捺染・色止めの蒸し

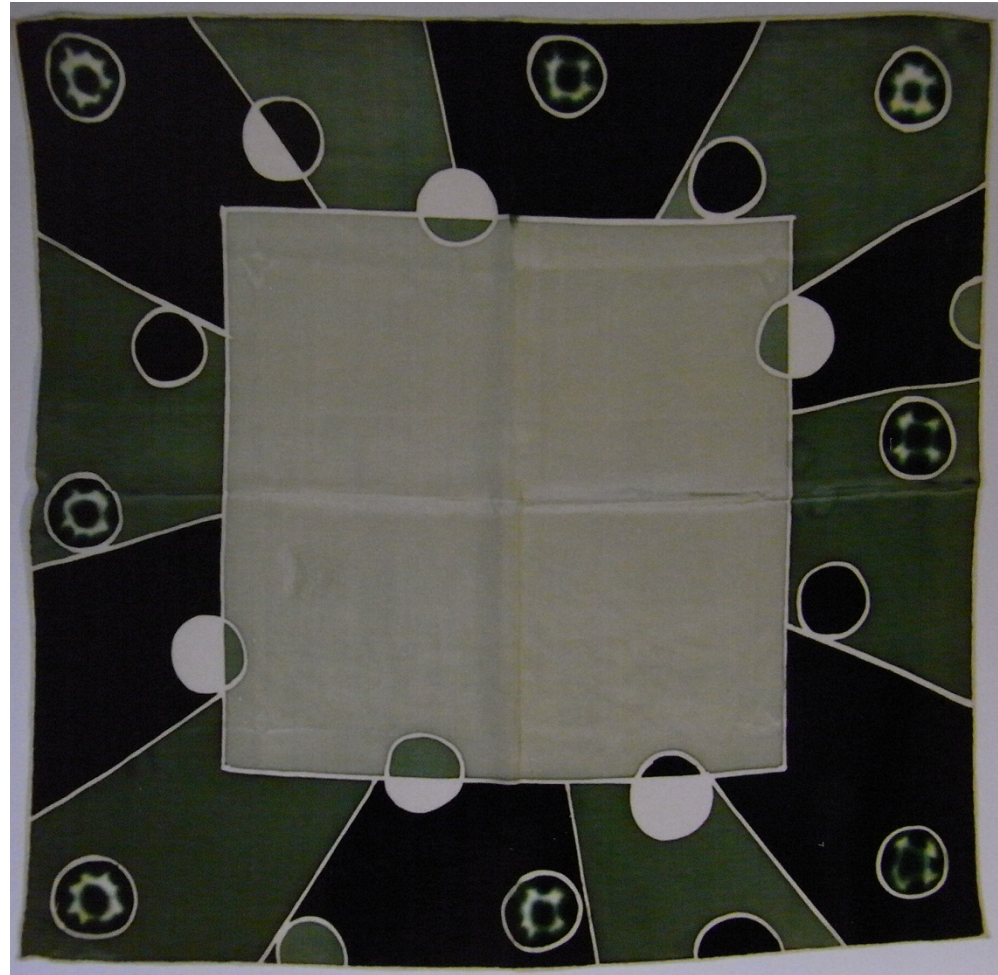
手巾産業からスカーフ産業へ (昭和初期)

36インチ(約91.4cm)幅の試作製品
ロンドンで好評

スカーフ輸出...昭和5年～

蠟 防 染
スクリーン捺染

昭和4～5年ごろのスカーフ



蠟防染

シルク博物館所蔵

戦中のスカーフ



シルク博物館所蔵

終戦直後占領下のスカーフ



シルク博物館所蔵

戦後の目覚ましい スカーフ産業の発達



シルク博物館所蔵写真

スクリーン手捺染風景

機械捺染



シルク博物館所蔵写真

戦後のスカーフ輸出量

(単位:万ダース)

年次	輸出枚数	年次	輸出枚数
1958(昭33)	1,181	1980(昭55)	1,107
1960(昭35)	1,401	1985(昭60)	763
1965(昭40)	2,300	1990(平 2)	393
1970(昭45)	2,031	1995(平 7)	173
1975(昭50)	1,724	2000(平12)	60

わが国からのスカーフ輸出先

(単位:万ダース、%)

輸出先	1965(昭和40)	1970(昭和45)
東南アジア	35.3 (2)	77.4 (4)
中近東	141.9 (6)	136.1 (7)
ヨーロッパ	348.0 (15)	440.8 (22)
北米・カナダ	1,119.3 (49)	840.1 (41)
中南米	118.3 (5)	86.0 (4)
アフリカ	504.0 (22)	380.7 (19)
オセアニア	29.7 (1)	38.2 (2)
ソ連・東欧	3.7 (0)	32.0 (1)
計	2,300.1 (100)	2,031.3 (100)

わが国のスカーフ輸入量

(単位：万ダース)

年次	輸入量	年次	輸入量
1981(昭56)	6.2	1995(平7)	218.8
1985(昭60)	7.3	2000(平12)	176.7
1990(平2)	105.0	2002(平14)	162.5

22 開港当初ごろに わが国が 輸入したものの

横浜の主要輸入品

(総輸入額に対する割合 %)

年次	綿織物	綿糸	毛織物	交織物	鉄	兵器	砂糖	米
明治元	20.8	14.2	17.6	4.7	2.5	14.8	2.3	10.6
〃 5	14.5	27.3	23.2	6.2	1.5	0.4	8.7	—
〃 10	15.3	20.7	14.8	5.4	3.2	1.8	11.2	0.0
〃 15	15.8	26.5	5.7	3.9	3.9	—	15.4	0.1
〃 20	7.8	14.8	15.5		8.9	1.8	13.5	0.0

出典: 横浜市史第三卷下P241から抜粋

東京問屋による横浜輸入砂糖の行方

(明治11年7月～明治12年6月 砂糖総計**167.7円万**)

国名	割合	国名	割合
武蔵	24.0%	陸中	1.6%
上野	14.4	陸奥	1.5
下総	12.4	磐城	1.4
常陸	10.8	信濃	1.3
下野	10.3	伊豆	0.6
陸前	9.1	安房	0.5
上総	5.5	羽前	0.5
岩代	3.1	相模	0.4
北海道	2.3	その他	0.3

出典・横浜市史第三巻下P274から作表

東京問屋による横浜輸入綿糸の行方

(明治11年7月～明治12年6月)

綿糸総計**460万円**)

国名	割合	国名	割合
上野	20.0 %	上総	0.8%
下野	17.5	甲斐	0.5
東京	12.5	相模	0.5
越後	12.5	下総	0.5
武蔵	5.4	駿河	0.5
陸前	1.5	信濃	0.5
羽後	1.0	その他	26.3

出典：横浜市史第三巻下P274から作表

東京問屋による横浜輸入品の行方

(明治11年7月～12年6月) (単位:千円、%)

	綿糸	生金巾	モスリン	砂糖	石油
信濃	23.0 (0.5)	57.8 (3.6)	75.2 (5.4)	21.9 (1.3)	21.1 (1.5)
上野	920.0 (20.0)	18.4 (1.2)	75.2 (5.4)	242.1 (14.4)	79.0 (5.8)
総計	4,600.0 (100.0)	1,598.4 (100.0)	1,384.4 (100.0)	1,676.6 (100.0)	1,370.0 (100.0)

出典:横浜市史第三巻下P274から作表

23 横浜から
国内各地に
伝播した
西洋文化

黒船と共に入ってきた西洋文化



開港当初の生糸積出港 象の鼻パーク（現在）



象の鼻

横浜から各地へ波及した 西洋文化 (1)

年 号	横浜に入った西洋文化
1859(安政6)	・病院・気象観測・時計
1860(万延元)	・ホテル・堵牛・パン・写真 ・競馬・アメリカ麦
1861(文久元)	・新聞(ジャパンヘラルド)・地番
1862(文久2)	・レストラン・ キリスト教会 ・風刺雑誌

横浜から各地へ波及した 西洋文化（2）

年 号	横浜に入った西洋文化
文 久 年 間	・西洋野菜 ・クリーニング
1864(元治元)	・理髪 ・カフェ ・陸上競技 ・劇場 ・居留地消防隊
1865(慶応元)	・アイスクリーム ・歯科治療 ・塗装 ・海水浴場 ・射撃
1866(慶応2)	・牛乳(牧場) ・西洋目薬

横浜から各地へ波及した 西洋文化 (3)

年 号	横浜に入った西洋文化
1867(慶応3)	・和英辞典 ・蒸気船
1868(明治元)	・ 理容 ・義足 (鉄橋)
1869(明治2)	・ビール・氷切り出し・灯台・電信 ・乗合馬車 ・人力車 ・軍楽隊
1870(明治3)	・公園 ・女子教育 ・石油灯

横浜から各地に波及した 西洋文化 (4)

年 号	横浜に入った西洋文化
1871(明治4)	・近代下水道 ・野球 ・幼児保育 ・聖書和訳出版
1872(明治5)	・鉄道開業 ・ガス灯 ・潜水 ・洋楽器 ・レンガ造り構造物
1873(明治6)	・近代水道 ・石鹼工場
1875(明治8)	・外国郵便 ・マッチ工場

「日本国新聞発祥之地」碑

1861
(文久元)

横浜
中華街
に建立



横浜天主堂（左）と 横浜海岸教会（右）



•1862(文久2)年
カトリック
(本町通り)



•1871(明治4)年
プロテスタント
(シルクセンター前)

キリスト教の布教

- ・ キリスト教は大きく分けて
「カトリック」と「プロテスタント」(ルーテルの宗教改革以来)
- ・ 日本への布教と禁止弾圧
1549(天文18)年にフランシスコ・ザビエルによって日本へ
伝えられたが、豊臣秀吉以来江戸時代に禁止弾圧された。
- ・ 開国・開港に伴う布教活動
1862(文久2)年、居留地に「横浜天主堂」(カトリック教会)
建立
1873(明治6)年、禁教令を廃止
アメリカ・プロテスタント諸派宣教師によって布教再開
カトリック共々、順調に各地に布教発展

「クリーニング業発祥の地」碑

- ・ 文久年間
日本人に
より開業

フランス橋
近くに建立



「西洋理髪発祥の地」碑

1864年
(元治元)

山下公園
内に建立



「日本最初麦酒工場」碑とビール井戸

1869(明治2)年



ビール井戸(北方小学校内)



「日本最古の公園」記念碑

1870(明治3)年 外人用山手公園 横浜公園内に建立



「鉄道発祥の地」碑

1872(明治5)年
横浜－新橋間開通

JR桜木町駅
近くに建立



開業当時の横浜駅長室跡碑

JR桜木町駅近くの鉄道発祥の地碑傍



「外国郵便創業の局」表示板

1875(明治8)年創業

横浜港郵便局入り口壁面



「電話交換創始之地」碑



1877(明治10)年通話実験

本町通り交差点「大棧橋入り口」付近に設置

吉田幸兵衛の父十内の手紙

1871(明治4)10月

郷里の嫁に牛肉の味噌漬け送付の添え手紙

「誠に牛は宜敷(中略)至極薬に相成」

孫娘が牛肉を食べるようになって太ってきた。牛肉が好物になったことなどを伝えた。

1871(明治4)11月

「ざんぎり頭」の流行について、「浜表・東京追々男女共、かみを切り候」「孫娘の髪型、ざんぎりに致候かたよろしく」

1871(明治4)12月

「乳不足に候はは、牛の乳もこれあり、浜表の小児

牛の乳にて育て候者多分御座候、誠に薬にて大丈夫に育ち候」

24 おわりに

(シルクで発展した横浜)



生糸も運んだ氷川丸

山下公園前





1 昨年 (2009年) は横浜開港150周年

開港当初の生糸積出港 象の鼻パーク（現在）



象の鼻

おわり

御清聴ありがとうございました